

令和2年国勢調査有識者会議(第5回)資料(抜粋)

●インターネット回答の促進に向けた分析

- 現役世代ではインターネット利用率は非常に高い(図1)。一方で若年単身層のインターネット回答率は低い(図4)。
→インターネット利用率は高いがインターネット回答率が低い単身若年層に対する対応が必要である。
- 単身高齢者のインターネット回答率は特に低くなっているが(図4)、高齢層のスマートフォン保有率は上昇している(図2)。
→2020年国勢調査では、インターネット回答が可能な環境を持つ高齢者の数は増加が見込まれるので、そうした高齢者をインターネット回答につなげる取組が必要。
- 近年我が国における在留外国人の数は増加している。(図3)
→2020年国勢調査では外国人世帯に対してもインターネット回答を促進する取組が必要である。

図1: 年齢階層別インターネット利用状況(個人) 出典: 平成29年通信利用動向調査

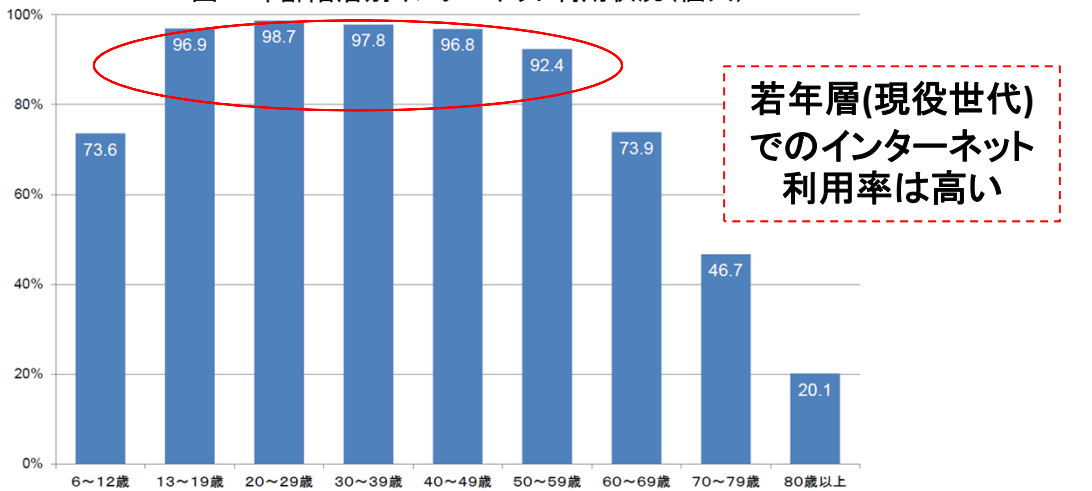


図2: 高齢者のスマホ保有率の推移

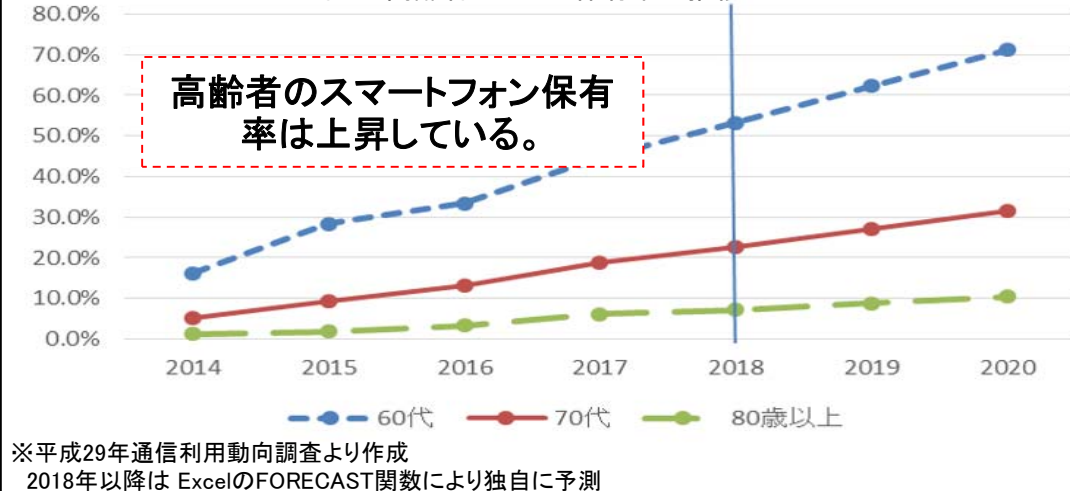


図3: 在留外国人数推移

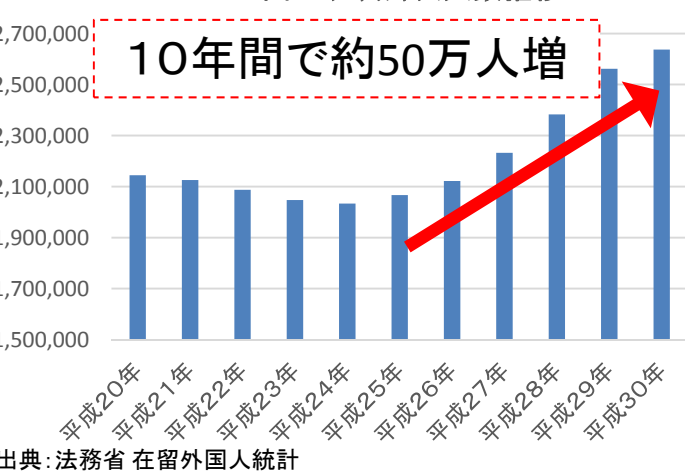


図4: 世帯主の年齢階級(5歳階級)別インターネット回答率(一般世帯のうち単身世帯)

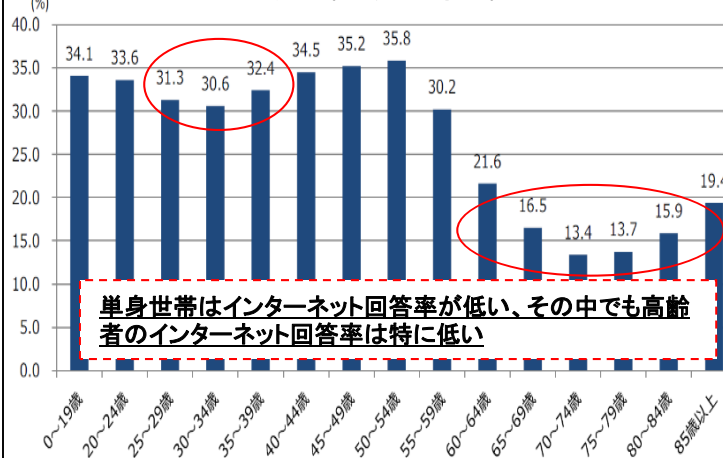


図5: 世帯人員規模別インターネット回答率(一般世帯)

